

第2回 都庁周辺の空間再編に関する在り方検討委員会

1. 日時・場所

令和5年8月25日（金） 13:30～15:00

都庁第2本庁舎31階特別会議室27 +オンライン併用開催

2. 出席者

別紙 出席者名簿のとおり

3. 議題

- ・ 開会
- ・ 議事
 - (1) 都庁周辺の空間の再編計画の方向性（案）
 - (2) 今年度の取組
- ・ 閉会

4. 配布資料

次第

- [資料1] 前回検討委員会からの整理
- [資料2] 都庁周辺の全体再編計画（案）（一部非公表）
- [資料3] 都庁周辺の空間別再編計画（案）（非公表）
- [資料4] 今年度の取組【報告】（非公表）
- [参考] 参考資料（一部非公表）

5. 議事概要

<開会>

（岸井会長）

- 第2回目の委員会ということで、今後の在り方に関する議論に進んでいきたい。今回と次回が議論の中心になると考えているので、積極的に発言頂きたい。

<議事>

（1） 都庁周辺の空間の再編計画の方向性

（2） 今年度の取組

（事務局より資料説明（資料1・2・3・4・参考））

（岸井会長）

- 本検討委員会の全体の流れとしては、第4回まで議論を重ねた後、パブリックコメントを行い、第5回で計画を取りまとめるスケジュールである。第2、3回で内容を議論し、第4回には皆さんと合意できる計画案をまとめていきたい。

（坂井委員）

- コンセプトとして「シティホール・パーク」としているが、「パーク」が今回検討している要素を包み込

む言葉として適切なのか疑問に感じた。テラス・プラザなどを総称する大きな傘としての言葉だと理解するが、もう少し議論が必要と考える。例えばだが、丹下先生が名付けた「都民広場」はそのままの名称を残し、コンセプトとしてプラザという言葉を用いる案は考えられる。

- 11号街路のコンセプトについて、「場所を繋ぎ、賑わいを連携させる」とあるが、場所を繋ぐのが道路であるので、少し分かりにくいと感じた。
- 「ライフスタイルイメージ」について、インクルーシブな視点で人物像を広げ、身体上の障害の有無や、様々な文化の外国から来ている方等、色々なニーズに応えることも想定したイメージづくりができると良い。
- 「今年度の取組」について、実験しながら検証していく点は非常に重要であると考え。あらかじめ検証事項を定めておき、仮説通りできたこと、問題があったことを整理できると良い。また、定量的な利用者数の記録と併せ、利用者が何を感じたかという定性的な評価も行い、次に繋げられる取組になれば良い。
- 現地を見て気づいた点として、議会棟はもっとオープンになると良いと改めて感じた。具体的には、低層部と都民広場が直接アクセスできるとよく、セキュリティの問題はあるが、とちよう保育園も子供の活動が垣間見えても良いと感じた。また11号街路下は、歩行者動線を確保するエリアと、困われ感を作り滞在できるエリアがあると、より使われやすい空間になると考える。

(田中里沙委員)

- 都庁が目指す将来像の実現を考える際、3人称ではなく1人称で考え、それぞれの人がどのように関わっていけるかという観点を忘れずに議論していきたい。
- 「世界における東京」や「日本における東京」の位置付けは、これからも変容を続けていく。新しいライフスタイルを創造していくということで、関係者・都民の思いと有識者の視点の摺り合わせを常に行う必要がある。
- 「トライ」から生まれる、都庁周辺にしかない新しさにもっと注目したい。ここから生み出されるものには、「新規性」「先進性」「多様性」があり、加えて人々がこの場所で「混在性」を持ち、進化していけることが重要である。様々な主体が協力し、成長していける基地にできれば良いが、そのためには多様性を創発する仕掛けが必要である。11号街路下や都民広場から繋がる部分は、もっと楽しく歩けるような仕掛けを作れると良い。滞在できて歩きやすい、楽しい動線をどのように作るか、今後の実験的な取組にも入れていくと良い。
- ふれあいモール等について、現状は石づくりのベンチなど、日射により火傷しそうなスペースしかないが、ベンチ・テーブル等、色々なものを設置して、憩える場所を作れると良い。都庁職員がずっと自席でばかり昼食をとるようでは、クリエイティビティがなくなる。多くの民間企業で、もっと会話をし、様々な価値観に触れ、そこから新しい事業を考えるということに取り組んでいるので、都庁職員も先進的に取り組めると良い。もっと都庁職員が笑顔で仕事ができれば、都民の明るさにもつながっていくと思うので、そのための空間をいかに作るかということを考えていきたい。
- 今回の計画で重要なエリアは、4号街沿いの空間ではないか。例えば、ニューヨークのメトロポリタン美術館の前に人々が座っているように、4号沿いの階段ベンチ等にも人々が座ると活気が出るのではないか。西新宿に集う人達が、次の用事に行く前に集まる場所にできるのも良い。西新宿エリアには専門学校や大学等もあるので、学生が勉強後に集まり、これからの予定を話す場や、ママ友達が公園で遊んだ後に少し休憩する場のように、コミュニティ毎に集いが促せる場として計画できると良い。
- 再編計画については、ダイナミックに回遊を促すとともに、多様な人と活動を受け入れ、応援するというスタンスで考えられると良い。
- 今年度の社会実験について、ベンチの数が少ないと座って良いのか戸惑う方もいると思うので、もう少し設置数を増やせると良いのではないか。
- 昨日は都民広場等を使用した大規模なイベントが開催されたようだが、今日は完全に撤収されていた。

切り替えが早く、「東京のスピード感」を表すものとして日々新しいことが起こっていく場所を目指すという考え方もある一方、余韻をプロデュースしていくという考え方もある。今後の空間再編にあたっては、その場にある意味性や、その場からどのような文化を生み出すのかを考え、工夫できると、生き生きしたものになるのではないか。

(泉山委員)

- 都民広場について、もっと植栽やベンチがあってもよく、植栽で日陰を作るぐらいのことが必要ではないか。「富山グランドプラザ」にはモバイル植栽が設置されており、イベント時には動かすことができる。都民広場は、大規模な改修には課題があると思われるため、そのような事例も参考になる。また、芝生の広場は「福岡市役所前広場」にもあるが、日中は端の方しか座られておらず、中心部が利用されづらい。人々の滞在を生み出すには、芝生化するだけでなく、植栽や椅子・ベンチといった拠り所が中心部にないといけない。
- 11号街路下の計画案は、イベント等に利用できる案のようだが、明るい空間とすることが重要であると感じた。
- 4号街路沿いの西新宿テラスは、座って見る景色が耐え得る景色かどうかが居心地としては大事である。「渋谷ストリーム」では階段広場の先にイベントを行うスペースが設けられており、関係性は参考になる。シンガポールの「オーチャードロード」も階段広場がストリート沿いに整備されている事例として参考になる。
- 都庁職員のアンケート結果では、オフィスの中で昼食をとっている人が圧倒的に多いが、働き方を含めて変わった方がよい点である。滞留空間の選択肢が少ないことが一つの要因であると思うので、少し隠れられる場所であることを念頭に、庁舎の西側のスペースや他の滞留空間を居心地よいものにするのが重要と感じた。
- 現地を視察して、歩行者動線の整理が重要と感じた。イベント時、議会時、通常時の差はあると思うが、通常時はもっとオープンにできると良い。
- 都政ギャラリーは、日常使いが豊かになると大きく変わる。都議会 PR コーナーが非常にもったいない。例えば、シティセンターのような東京全体を PR する情報の発信や、用途を大きく変更できるのであれば飲食スペースにするなど、様々な可能性がある。
- 議会レストランは、オープンカフェのような案になっているが、夜の使われ方も重要である。都民広場と併せ、夜に飲食ができるという場所を作っても良いのではないか。
- 議会棟の地下に滞留空間を作るとするのは非常に良いと思うが、この空間に面している施設と一体的に整備できると良い。滞留空間の椅子・テーブル等の管理等も含めて検討できると良い。

(田中友章副会長)

- 都庁の目指す将来像(案)の「シティホール・パーク」について、「パーク」という言葉が何を意味しているのか、議論を深め、明快にした方が良い。
- 都庁は比較的、それぞれの機能を持つ空間とそれらを合理的に繋ぐ移動のための空間の集積で構成されている。これは逆に、余剰の空間があまりないということであり、様々な目的にモードを変えながら使える空間があまりないということである。庁舎で働く人達が超高層ビルの足元に降りて行く場所があまりなく、来庁者もセキュリティゲート内にある目的地から降りてきた時に滞留する場所や、早めに着いた際に時間調整する場所がない。また、市民が都庁周辺に来た時に、都庁周辺でぶらぶらする空間もない。足元回りのセキュリティのかかかっていない空間を如何に再構成し、場合によっては平日・休日のように時間帯にあわせて、モードを変えながら、色々な形で使ってもらえる空間をどのように作っていくかということが、大きな命題であると感じた。
- 都民広場は、約 3,000 m²と、人々が溜まる場所としてはスケールが大きすぎる。年に数回、大勢の人が集まる目的で使われるかもしれないが、残りの大半の時間は、広すぎる空間が鎮座している状態である。こ

の大きさの空間を持ち続けるべきか、集会機能に使う空間を 1/3 程度に絞り込み、残りの空間を異なる用途の空間にすることを考えるか、大きな分かれ道になると考える。避難先としての機能は維持する必要があるが、集会目的の空間は、ここまで必要ないと考える。もし大きな集会機能を別の場所で用意できるのであれば、都民広場は形を変えても良いのではないかと。丹下先生の設計思想である、議会棟・都民広場・第一庁舎に繋がる軸線を持ったデザインを意識しながら、広場の両脇は大きく変えていく方向性もあると思う。また、ステージと広場の間には吹き抜けがあり、変わった断面構成である。都民広場のスケールが小さくなるのであれば、ステージを現在の広場上に再配置し、現在のステージと地下は雨が入らないようにする等、サンクンプラザとして使いやすい空間とする方が良いのではないかと。

- 11号街路下は高さがそれほどないため、集会目的の空間としては使われないのではないかと。庁舎1階の11号街路下に面した所にあるコンビニや全国観光PRコーナー等を11号街路下に再配置するという方法もある。パビリオンのようなものを複数配置し、その間をプロムナードのように巡り、端から端まで移動できるような空間とすることも考えられる。暗いイメージを変えるためにも、パビリオンに様々な情報発信機能を設け、そこから明かりが漏れる空間を巡り歩いていくことで長い距離を楽しみながら移動できるという可能性もある。
- ふれあいモールは、あまり利用されていないということだが、第一庁舎・第二庁舎・新宿中央公園からアクセスしやすい、ポテンシャルの高い場所である。ただ、現在は空間が広すぎて、ベンチ等もなく、西日が強い等、滞在に適した空間になっていない。H型の通路で歩行者動線は確保できるため、残りの空間は滞留空間とすることも可能である。道路上空で制限等はあるかもしれないが、上空のブリッジにアンカーを取りワイヤーを張れば、サンシェードを取り付ける余地もあると思う。多目的に利用される場、例えば昼は同僚とお昼を楽しむ場、他の時間帯は、都庁を訪れる人がタッチダウンオフィスとして使う場にできると良いと思う。都庁舎で働く1万人以上の都庁職員の知的生産性を向上させるためにも、ウェルビーイングをどのように増やしていくかを考えるべき。低層部にウェルビーイングの向上に寄与する空間を設け、都庁職員のみならず、多様な人々が空間や時間をシェアすると良い。
- 4号街路沿いは、新宿駅から都庁に来る場合のメインの動線であり、アプローチの顔となることを意識して整備すると良い。

(新宿副都心エリア環境改善委員会 技術担当理事)

- 都庁は3号街路にも面していることから、3号街路を挟んだ向かいの新宿NSビルとの関係や、3号街路の先のふれあいモール、ふれあいモール下の空間も含めてゾーンとして検討してほしい。
- 先行的な取組として示された、都民広場にベンチ等を設置する際には、何を検証するかも重要である。それが利用されるためには、空間整備だけでなく、サービスについても考える必要がある。例えば、ベンチが濡れていれば拭く必要があり、清掃も必要になる。それら適切なサービスを継続していくための主体のあり方も議論すべきテーマであると思う。
- 夏季の都民広場は暑いため、木陰のような過ごしやすい空間を創る必要がある。田中副会長のご発言のように、2/3程度は再整備し、場合によっては屋根をつけても良いのではないかと。参考として、新宿住友ビルの足元に2020年にアトリウムを整備したが、イベントのない時も多くの人に使われている現状がある。
- 昨日、都民広場でパラリンピックのレガシーイベントが開催されていたが、4号街路を歩いている人から、都民広場でのイベントを感じにくい状況がうかがえた。4号街路と街区には高低差の問題があり、短期的には解決できないと思うが、中期的取組みとして加えて検討してほしい。
- 田中委員より、都庁周辺は新しいチャレンジを行う場所でありたいという話もあった。都庁再編の検討プロセスの中に、都民や来街者が加わる仕組みがあると良いと思う。例えば、都民広場での体験イベントの参加者からの意見、デジタル技術を活用した多くの都民からの意見等を計画にフィードバックして、段階的に実現していくチャレンジは有意義であると思う。

(都市整備局 都市基盤部長 (代理))

- 11号街路は、再整備方針で「回遊軸」として位置づけられている。第一庁舎の前面だけでなく、11号街路全体で歩行者空間の充実を進めていく想定であり、引き続き調整していきたい。

(デジタルサービス局 つながる東京整備担当部長)

- 階層が複雑である西新宿は、不利な通信環境であるが、今後のまちづくりにおいては、通信環境の整備は必須と認識している。通信がまちの中に行き届き、意識せずとも使える環境になっていることを、再編計画の考え方に入れて欲しい。

(国土交通省 都市局 都市計画課 都市計画調査室長)

- 都庁周辺の公共空間は、広幅員の街路や大きな面積の広場がある中で、普段あまり人が居ない。一方で、11号街路下のような薄暗い通路は人が多く歩いている。オープンな場所に人が少なく、暗い場所は人が多いというちぐはぐな状況を、どのように再編できるかが課題であると感じている。全国でも、高層ビルと併せて公開空地や公共空間がつくられる中、周辺部とのつながりが希薄である点が問題として挙げられている。都庁周辺の再編の方向性が今後各所での参考になると思う。

(国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官)

- ウォーカブルな空間を考えると、公共空間とその周辺の建物との関係は重要になる。議会棟のレストラン部分等は、外部と内部との繋がりを考えるという意味で重要なエリアであり、民間街区の再整備を先導するような仕立てを考えてほしい。

(建設局 企画担当部長)

- 11号街路下は、橋梁構造のため、穴を空ける、桁の空間を上げる等は相当難しい。
- 4号街路は、新しいモビリティが整備される想定であると思うが、それらの停留所の位置等、都市基盤側の検討も横目に見ながら都庁周辺の検討を進めてほしい。

(都市整備局 まちづくり調整担当部長)

- 本日の委員会は考えさせられることが多く、先生方の意見を総合的に考えると、都庁には冗長性ある空間が必要だと感じた。また、都庁の空間の中だけで楽しめるものをつくろうとしても難しいこともわかった。都庁職員が低層部に降りていくことで、色々な発見が生まれていくと感じた。

(財務局 庁舎運営担当部長)

- 観光客の多い展望室について、夜景の眺望を楽しむ方が多いため、室内の映り込みが少ない窓ガラスに変える、照明を落ち着いた色調にする等の改修工事を行っている。また、車椅子利用者が窓に近づけるスペースを確保する等、都庁に訪れた方に喜んでもらえるよう工夫を行っている。
- 今日はハード面の話が中心だったが、次回は都民広場の活用の仕方・運用方法等のソフト面も整理していく必要があると考えている。エリアマネジメント団体と連携し、いかに賑わいを創出していけるか、滞留・回遊しやすい空間にできるか、議論できると良い。

(岸井会長)

- 西新宿は、1960~70年頃に将来の自動車社会の到来を受け止めるという発想が強くあった中で計画され、1990年頃にコンペで丹下健三氏の案が選定され、都庁舎が建設された。30年が経ち、何か変えなければいけないと皆が感じている中、それは一体何かということ認識することが重要である。
- 一つは、想定通り車社会が到来したものの、東京では公共交通のサービスの向上や高齢者の増加等を受けて、ウォーカブルな空間の需要が高まっており、4号街路も再整備しようという話が出ている。都庁舎に来た人は11号街路に面した2階の正面玄関を使わず、4号街路から11号街路下の空間を抜けて庁舎に入る。都庁舎に入る玄関口があんなに暗く、ただ茫漠とした空間で良いのか、真剣に考えるべきである。また、11号街路下は、4号街路から南北に延びる軸をはっきり意識するべき。都民広場と11号街路下を一体的な円形のイベントスペースとする案は間違っていると思う。
- 当時から変わった要素として、通信・ICT技術の進化が挙げられるが、次の都庁ではどのように受け止め

るのか。現在の都庁周辺で ICT の雰囲気は感じられない。

- 外国人観光客がここまで訪れることは、当時想定されていなかった。世界の人達に対し発信する、東京の次のシティホールは何かというメッセージは非常に重要であり、英語でも伝わることを考えた方が良い。
- 西新宿全体の再整備の議論の中で、アーバンロビー、西新宿テラス、コミュニケーションラボ等を整備するという方針を出した。都庁が先頭を切って整備していくことには多いに賛成するが、真剣に考える必要がある。アーバンロビーは、建物の中の機能を外の空間に開くことで、外を歩く様々な人達が、ロビーに自然と入ってきてても良い。そのような建物内外のやり取り・交流を生み出すために、もっと1階部分をまちに開くことが重要であると思う。セキュリティの問題もあるので、どこまで開けるかを考える必要がある。アーバンロビーの範囲は、庁舎内のコンビニがあるエリア等、来庁者が自由に使える所を含めて議論すべき。11号街路下は、どこまでが開かれた空間として扱えるのかを認識した方が良い。また、展望室も低層部とのつながり・連携をもっと考えるべきである。西新宿テラスは、外部空間に内部空間が出ていく位のイメージで、内部と外部が行き来されている姿が本来の在り方である。外に椅子を置けば良いというものではない。議会レストランは、現状は窓ガラスに模様があり、内部が覗けないようになっているが、もっと外に開かれた場所にするべき。コミュニケーションラボも、中身をよく考える必要がある。例えば民間企業の実験の場とする、市民のニーズを捉えビジネスのきっかけを掴むといった体験ができるはず。都庁にあるコミュニケーションラボとして、都庁が市民に提供すべき情報・体験は何かを考え、民間街区に取組を促すメッセージを発信できると良い。

(泉山委員)

- 全体的に都民が使う機会を増やす必要があるのではないかと。現在の都庁舎は権威的なところがあり、学生が勉強しに来る場としてはハードルが高い。例えば、都庁ではスタートアップ支援等のイノベーションに関わる事業に取り組まれているが、それらの拠点が低層階にあると良いのではないかと。また、都民が変わったと感じる機会を増やすことが重要である。蔦屋ではシェアラウンジとして飲食可能で仕事ができる場を作っているが、そのような視点で、休日も含め、市民に来てもらう仕掛けがあると良い。

(田中友章副会長)

- アーバンロビーは、11号街路下及び第一庁舎・第二庁舎のセキュリティの外全ての部分と見立て、機能をどのように再配置するか議論するのが良いのではないかと。2階レベルでは、第一庁舎・第二庁舎の内部、ふれあいモール、新宿中央公園側の屋外空間をアーバンロビーと捉え、議論できると良い。

以 上